

コロナ危機に克つ

キリンビール 横浜工場の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言下で、食品メーカーの多くは供給責任を担った。キリンビール横浜工場でも、従業員の感染防止対策を徹底しながら、工場の操業に取り組んだ。不要不急の外出自粛が求められた影響で、外食産業向けの需要が落ち込む一方、オンライン飲み会などの新しい需要の拡大で、家庭内での需要が増大した。

缶ビール需要が急増 オンラインなど「家飲み」増え

京急生麦駅から徒歩約10分にある報共有しながら連携して対応しているキリンビール横浜工場は、工場。また、手洗いや咳エチケット、見学ツアーやビールづくり体験、体温検査などの体調管理などを徹底し、レストランなどがあり、家族連れなどに人気のスポットだ。し

食品メーカーでは、食品衛生にかし、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念が高まり、3月1日から、見学施設・ショップなどは当面の間休止になった(6月9日からレストランは営業再開)。

キリンビール常務執行役員横浜工場長の九鬼理宏氏は「緊急事態宣言が出た後でも、飲料については製造を継続した。工場の従業員や家族、お取引先などのステークホルダーの皆様への感染リスクを軽減し、供給責任を果たしていくことに最も神経を使っている」と話す。

感染防止対策はキリンビール本社・工場対策本部を設置し、情報水結などのチューハイのほか、クラフトビールも製造。仕込みから発酵・貯蔵、パッケージングまでの工程を一貫して行っている。



キリンビール横浜工場

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛の影響で、飲食店に出かけられない人が増え、店舗向けに出荷している樽や壺の製造が減る一方で、オンラインの飲み会などが急増している。缶の製造が増大した。九鬼氏は「天候による需要の変化はよくあるが、今回のような需要の変化は初めての経験だった」と話す。

パッケージングの作業では、缶列、壺列の充填機の操作がそれぞれ専門性を必要とするため、簡単に人員をシフトできない。作業に余裕のできた他列の経験者を任列に配置するなど需要増大に対応した。

キリンビール常務執行役員横浜工場長

九鬼理宏氏



キリンビール横浜工場では、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する対策として、操業系以外の従業員のリワークや時差通勤などを実施した。現場を重視する製造業として、テレワークをどう活用するのか。キリンビール常務執行役員横浜工場長

「従業員は食品製造を担う者として、普段から衛生に関しては高い意識をもって取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルスは未知のウイルスなので、従業員の不安も大きい。会社としては心的ストレスを少しでも和らげるように配慮した。常に何か必要であるかを考え、思いついたことはすぐに実行するようにしている」

——具体的には

「工場への通勤は原則公共交通機関を利用するが、混雑のピークを避け、感染を防ぐために時差出勤を推奨した。また、施設内の駐車場のスペースの範囲内で、マイカー通勤も許可した」

——テレワークの導入は

「操業系以外の従業員に対しては、在宅勤務でテレワークしても構わない。対面の重要性を感じながらも、上司とコミュニケーションをとっていただければ、オンラインでも十分に仕事ができると感じていただけた」

——コロナ禍の教訓は

「コロナ禍はピンチであったが、ここから得られた気づきをチャンスと捉えたい。変えるべきもの、変えないものをしっかり判断したことが必要だ。今は、家飲み需要の拡大で、低価格商品である新ジャンル「本麒麟」や健康志向が高まり糖質オフ系発泡酒の「淡麗グリーンラベル」、ノンアルコールビールなどが好調だ。その一方で、『やっぱりお店で、おいしい料理と合わせて、ビールが飲みたい』というニーズも強い。お客様の嗜好やニーズにしっかりと対応していきたい」

——地域貢献にも積極的だ

「横浜工場は長らくこの地で操業を続けており、地域のために何かできないかと考え、工場見学用として効率が上がる。自宅からカメラで確認し、目視すべきものは現場に行って短時間で確認することもできるだろう。それによっても貢献できることを探してい

危機下での気づきを好機に

「従業員は食品製造を担う者として、普段から衛生に関しては高い意識をもって取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルスは未知のウイルスなので、従業員の不安も大きい。会社としては心的ストレスを少しでも和らげるように配慮した。常に何か必要であるかを考え、思いついたことはすぐに実行するようにしている」

「工場への通勤は原則公共交通機関を利用するが、混雑のピークを避け、感染を防ぐために時差出勤を推奨した。また、施設内の駐車場のスペースの範囲内で、マイカー通勤も許可した」

「操業系以外の従業員に対しては、在宅勤務でテレワークしても構わない。対面の重要性を感じながらも、上司とコミュニケーションをとっていただければ、オンラインでも十分に仕事ができると感じていただけた」

「コロナ禍はピンチであったが、ここから得られた気づきをチャンスと捉えたい。変えるべきもの、変えないもの、しっかり判断したことが必要だ。今は、家飲み需要の拡大で、低価格商品である新ジャンル「本麒麟」や健康志向が高まり糖質オフ系発泡酒の「淡麗グリーンラベル」、ノンアルコールビールなどが好調だ。その一方で、『やっぱりお店で、おいしい料理と合わせて、ビールが飲みたい』というニーズも強い。お客様の嗜好やニーズにしっかりと対応していきたい」

「横浜工場は長らくこの地で操業を続けており、地域のために何かできないかと考え、工場見学用として効率が上がる。自宅からカメラで確認し、目視すべきものは現場に行って短時間で確認することもできるだろう。それによっても貢献できることを探してい